宮城県肢体不自由児者父母の会連合会

会報　こ　こ　ろ　第６３号

発行責任者：宮城県肢体不自由児者父母の会連合会　岩崎志郎
〒983-0836　仙台市宮城野区幸町４丁目６－２　(財)宮城県肢体不自由児協会内
電話：022-293-2902　ＦＡＸ：022-293-2905
ホームページ：http://miyagikenshiren.web.fc2.com

さわやかレクリェーション－黄金の煌きを－

日時：平成２６年９月２７日（土）
場所：涌谷町　わくや万葉の里　天平ろまん、美里町　花野果市場

今年度の全肢連療育事業、さわやかレクリェーションは、『黄金の煌きを』と題して美里町 花野果市場見学、涌谷町わくや万葉の里　天平ろまん館において、砂金採り体験を実施いたしました。

天候にも恵まれて、宮城県肢連のさわやかレクリェーションは、雨が降らない伝説をまた更新出来ました。

今回は３４名の参加で、仙台自立の家と宮肢協のバスをお借りしたので、仙台駅発と、啓生園発の２箇所の集合出発で、花野果市場を待ち合わせ場所としました。市場では、地場産品の花や新鮮野菜などが、所狭しと並べてありとても活気がありまし

た。

次の天平ろまん館では、「東大寺大仏の建立の際に、約１３kgの金を献上した」という説明を受けたあと、一攫千金を夢に見ながら砂金採りが始まりました。職員の方は、いとも簡単に採って見せてくれたので、我も続けと砂をすくいましたが、中々見つけられません。するとあちらこちらから、「あった！あった！」の歓声が聞こえてきて、砂をすくう手に力が入りました。４～５粒見つけた人は、見つけられなかった人に１～２粒分けてあげ、一緒に喜びを分かち合いました。米粒よりも小さな金を見つけるのは、とても根気のいる作業だと思いました。また、当時の技術を映像や模型を交えて知る事ができ、とても勉強になりました。

（下山　恵子記）

さわやかレクに参加して

鹿野　恵美

肢体不自由児者父母の会の行事に参加してみて思った事は、私は仙台駅でみなさんと一緒になったので、バスの中では話をする人がいなかったので少しさびしかったです。でも、涌谷の砂金採り会場で同じ啓生園の黒川ひろみさんのお母さんを見つけ、いっしょに行動できたので楽しかったです。私は、砂金採りで、水に手を入れられなかったのですが、黒川さんに採ってもらいました。また、車イスで動いたので、砂利道があったり、デコボコだったり大変でしたが、車イスを押してくれたお父さん、お母さん方ありがとうございました。

昼食の時、会長さんの話では、「参加してくれる人が少なくなると、父母の会の行事が出来なくなる」と言っていました。私はまた参加したいとは思うのですが、あまり遠くになると金銭的な面で参加できないかもしれません。だから、安い宿泊施設で障害者手帳が使える場所、観光を考えていただけたらもっと参加できると思います。今回砂金採りは無理でしたが、買い物をした花野果市場が一番楽しかったです。同じ施設に通っている人達とばかり話していたので、一人で参加する人のことも考えて、グループを作り色々な人とお話ができるようにしたり、昼食はゆっくりできて楽しめる所に行きたいなぁと思いました。

仙台市障害企画課・支援課との懇談会

恒例となりました仙台市肢体不自由児者父母の会と仙台市障害企画課ならびに障害支援課との懇談会は、去る３月１２日、仙台市肢体不自由児者父母の会から佐藤征機会長はじめ今野得子、永井一男両副会長と工藤敏子幹事の４人が仙台市を訪れて開かれました。

仙台市からは、高橋洋子企画課長、石井浩之支援課長、都丸晃彦支援課係長、須田周治施設支援係長の４人が出席しました。その内容を紹介します。　（永井一男記）

災害復興住宅への入居　障害者も優先的に

３・１１の大震災から４年。復興は道半ばですが、被災者向け災害公営住宅は完成しつつあり、すでに入居が始まっています。一部に空きも出ているとのことですが、障害者に対しても被災者同様に応募の資格を与えてもらえないでしょうか。

回答　災害公営住宅は、法律により被災者のための住宅として建設しています。法律ですので、それを拡大することはできません。

なお、第３次募集は３月６日で締め切りました。将来空きが出た場合は、通常の市営住宅として一般公募することもあると思います

自動販売機設置の　新規参入の機会を

仙台肢会は、あるメーカーの清涼飲料水自動販売機を設置することにより、その売り上げの中から援助を受けています。仙台市の施設に自販機を設置する場合は、抽選で決めていると聞きましたが、抽選で外れた場合のために、設置期限を定め再抽選するなど、参入の機会を拡大してもらえないでしょうか。

回答　仙台市では、施設に設置する清涼飲料水の自動販売機は、必要に応じ一般競争入札による募集としています。設置場所により募集要領も違ってきます。期間は原則３年間としていますが、最初の３年間に限り更新を認めています。

なお、仙台市立病院に設置の自販機は、平成２９年３月が期限となっていますので、その時に応募してはいかがでしょうか。

障害者優先調達の　積極的取り組み望む

就労支援事業として平成２５年４月施行された障害者優先調達推進法に基づき、仙台市は、「各課に購入の促進を呼びかけ、前年の実績を上回る予算を確保することにしている」と昨年の懇談会でお聞きしましたが、その後の状況はいかがですか。

回答　各課に５万円を限度とするなど数値目標を定め、積極的に調達するように働きかけています。しかし、制度も始まって２年と言うこともあって、皆さんの期待するまでになっていないのも事実です。

平成２６年度の実績はまだ出ていませんが、２７年度も数値目標を立て取り組みます。

なお、物品を買うだけでなく、販売活

動に市役所内や広場など場所の提供もしています。

グループホーム設置に支援と援助を

現在仙台肢会では、身体・知的障害者を対象にしたグループホームの設置に向け検討中です。仙台市として資金的援助や融資制度などあるでしょうか。また、仙台市の第４次福祉計画（平成２７年度～２９年度）では、重点的に取り組む事業として、グループホームの設置促進をかかげていますが、具体的な計画はどのようなものでしょうか。

回答　戸建て住宅等をグループホームとて活用する場合は、原則として、寄宿舎として取り扱われるため、建築基準法上の用途変更手続きが必要となり、避難上の安全性確保等の対策を講じる必要があります。具体的には　①居室や廊下・階段等の壁や天井を準不燃材料とすること　②防火上主要な間切り壁は、準耐火構造にすること　③廊下・階段に一定の非常用照明装置を設置すること　などの対策が必要となります。

仙台市の補助制度は、新規に定員４人以上のホームを開設する場合は、消防設備の設置及び建築基準法の基準に合致するための住宅改修に要した経費を対象に、一件につき対象経費の３分の２（１００万円限度）を補助します。

融資制度は、仙台市にはありません。「独立行政法人福祉医療機構」は、福祉貸付事業として、障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス等を実施する法人に対し、資金貸し付けを行っています。①資金の種類は、建築資金、設備・備品資金、土地取得資金です　②貸付限度額は、法的・制度的補助金を控除した金額に融資率（融資対象施設により８０％、７５％、７０％）を乗じた金額を限度としています　③貸付期間は、融資の対象や資金の種類により、５年以内から３０年までです　④利率は、貸付契約時の利率で、１０年経過毎に金利見直し制度があります。

仙台市の第４次福祉計画は、平成２７年度から平成２９年度までの３年間です。その中でも重点的に推進するものとして、グループホームの設置促進を掲げています。平成２７年度以降毎年１００人ずつの利用者増を図る計画です。なお、現在グループホームは、１８０箇所（精神障害者含む）あり、約９００人入居しています。

障害者差別解消条例は多くの意見を聞いて

仙台市は、平成２６年に国が批准した「障害者の権利に関する条約」を受けて、「障害者差別解消条例」の平成２８年４月施行に向けて準備中と聞いています。障害者の権利及び尊厳を保護し、真に差別の解消に繋がるものにするためには、障害者本人や関係者の声を十分聞く必要があると思いますが、不十分だという声もあります。市の考えをお聞きします。

回答　仙台市は、障害のある人もない人も暮しらしやすい街にするために、「障害を理由とする差別の解消を推進するための条例」について検討しています。これまでは、障害者施設推進協議会での検討会を４回、障害者団体との意見交換会を７団体、１３０人参加、市民参加の「ココロン・カフェ」を第３回まで１５８人参加で実施、シンポジュウムを１０２人参加で開催し、意見を出していただきました。市としては、十分意見をお聞きし

たと思っています。

これまでの取り組みから出た意見をふまえ、①差別解消の理念　②「差別」についての定義　③市民・事業者・行政の役割　④障害による差別を解消するための取り組みのあり方　⑤相談支援体制のあり方 を整理し、条例づくりにあたって行きます。秋までに素案をまとめ、年末の議会に諮った上で、平成２８年４月施行の予定で進めています。

介護サービスの低下懸念
介護報酬引き下げ

消費税１０％への引き上げが平成２８年４月まで一年半先送りしたことを受け、社会保障費の抑制が図られています。中でも今年４月からの介護報酬引き下げは、小規模事業所の経営を直撃し、介護職員の労働条件の悪化や介護サービスの質的・量的後退を招くのは明らかと思われます。そのようなことのないように、行政としての役割を果たしてのほしいと思います。

回答　介護報酬の切り下げと同時に、介護職員の報酬アップも実施します。よりメリハリを付けた予算配分により、全体のバランスを取って行こうということです。ご指摘の通り、サービスの低下にならないように監視して参ります。

障害者の６５歳問題
サービス切り捨てないか

障害者が６５歳になると、それまで受けていた障害福祉サービスから介護保険のサービスが優先されると聞きしました。必要なサービスが介護保険のサービスにはない場合があります。その場合国は、福祉サービスと介護保険は併用できるとの見解ですが、運用は、各自治体の裁量次第と伺っています。

また、介護保険のサービスには、自己負担１割が発生します。二重の改悪とおもいますが、仙台市の見解をお聞きします。

回答　障害者が６５歳になった時に、障害者福祉サービスから介護保険のサービスに切り替わります。仙台市は、介護保険にないサービスは、これまで受けていた福祉サービスを継続して受けられることとしています。

介護保険の１割受益者負担は法律で定めたものです。ご理解ください。

縫製ボランティア募集！

仙台自立の家では、さをり織りや、和バック、布ぞうりなどの手工芸品を製作しています。縫製に携わる利用者が少ないのでお手伝いいただけませんか。経験は問いません。障害のある方と気軽に、楽しく、一緒に活動しませんか。

※ 詳細については下記にお問合せください。

仙　台　自　立　の　家
仙台市青葉区吉成台2-１2-２4
TEL　０２２（３０３）０２６０

第４７回全国肢体不自由児者父母の会連合会全国大会

日時：平成２６年９月６日（土）～７日（日）
場所：豊橋市・ロジワールホテル豊橋（ホリデイ･ホール）
大会テーマ：住み慣れた地域で、共生社会の実現を目指して

第４７回全国肢体不自由児者父母の会全国大会・第４９回東海北陸肢体不自由児者父母の会愛知大会が、『住み慣れた地域で、共生社会の実現を目指して』－どんなに重い障害を持っていても地域で普通に生きる－を大会テーマに掲げ、昨年９月６日～７日に豊橋市・ロジワールホテル豊橋を会場にして開催された。

１日目

中神達二大会会長の挨拶と上野密全肢連事務局長の基調報告の後、

記念講演：２０２０年東京オリンピック・パラリンピック開催決定記念講演
「障害者スポーツとＱＯＬ」
加藤啓太氏
（ロンドンパラリンピック日本代表）

寸劇「学校生活や日常生活での提言」、
第一幕「特別支援学校って？」
豊橋肢体不自由児者父母の会
第二幕「卒業後、こどもはどこへ？」
岡崎市肢体不自由児（者）父母の会

基調講演：障害児（者）医療学寄附講座と医療的ケアについて
三浦清邦氏（名古屋大学大学院教授）

２日目

シンポジューム
「共生社会の実現を目指して」

コーデイネーター
小林信秋氏（難病のこども支援全国ネットワーク会長）

シンポジスト
大石明宣氏（信愛会・名世会会長）
「共生社会の実現を目指して」

乗名廉氏（豊橋特別支援学校教頭）
「特別支援学校として目指している教育活動と地域の関係諸機関との連携の現状」

渡辺竜夫氏（東三河北部障害者就業・生活支援センター長）
「自分らしい暮らしと福祉サービスの活用」

江川和郎氏（とよはし総合相談支援センター・統括相談員）
「親亡き後の支援を考える」

シンポジュームに続き

災害予防講演：体験しよう備えよう・さくらピア避難所体験の取り組み
本田栄子氏
（豊橋障害者福祉会館・事務長）

閉会式・大会決議文を採択、次期大会開催地を香川県と決め、閉会となった。

今大会には宮城県肢連からの参加者はなかった。従って、右記の大会紹介は愛知県肢連の作成した全国大会報告書からの抜粋である。

（金子武次郎記）

第３４回全肢連東北地区大会岩手大会

日時：平成２６年９月１３日（土）～１４日（日）
場所：岩手県・八幡平市　いこいの村岩手

第３４回全肢連東北地区大会岩手大会が、「すべての人が自分らしく生きよう」を大会テーマに平成２６年９月１３日（土）～１４日（日）、八幡平市・いこいの村岩手において開催された。岩手大会は「東北地区肢体不自由児・者父母の会連絡協議会」と「岩手県肢体不自由児・父母の会」との共催で行われた。宮城県肢連からは１３人の会員が参加した。

全肢連の清水会長が、地方を中心とした「住まいの形態や在り方の問題、事業所不足・人材不足などの地域偏在」を改善していくのが重要な事や、「親の高齢化・親亡き後」の不安解消、障害年金に関する問題を指摘し、地域の中から声を出して欲しいとの挨拶がなされた。上野事務局長からは、現在進められている諸政策、特に都道府県・市町村も３年ごとに障害者福祉計画を作成する事や、生活介護施設の必要性などの問題を中心に基調報告が行われた。

「自分らしく生きる」をテーマに参加者を１０グループに分けてグループワークを行い参加者同士の意見交換が行われた。

（川名敏也記）

格差拡大を懸念

東北地区岩手大会に参加して
川名　敏也

会員の皆様元気にお過ごしでしょうか。

さて、今年の東北ブロック大会は、「すべての人が自分らしく生きよう」を大会テーマに、平成２６年９月１３日（土）～１４日（日）の日程で、岩手県八幡平市「いこいの村岩手」を会場に開催されました。当県父母の会からは１３人が参加いたしました。

「自分らしく生きる」をテーマに、８人１グループで１０グループを構成し、グループワークが開催されました。私が参加したグループでは、参加者から出された意見としては、①ショートステイ利用者が多数なため利用できない。②ケア付きグループホームを建設してほしい。③入所施設が足りない。④障害者年金が少ない。⑤障害者専用の高齢者施設の必要性。などについて討論いたしました。討論を通じて年々会員も障害者本人も高齢になり、今後の生活に大きな不安を感じている事が分かりました。

年々、障害者福祉サービスの地域格差の増大や、個々の障害者（親も含む）の所得（資産）格差が拡がっている事は、重要な問題だと思いました。

会員並びに障害者本人の生活不安を解消する為、今後も国、県、市町村に要望を行うのは当然ですが、会として何が出来るのか、何をすべきなのか、並びに現在の県父母の会の組織形態等を話し合う時期に来ているのではないかと私は思います。

今年度も大会に参加させていただきありがとうございました。

多くの意見　とても良かった

東北地区岩手大会に参加して
今野　得子

昨年の９月１３日（土）から１４日（日）の２日間にかけての大会でした。

宮城県からは１３名の参加でした。場所は「いこいの村岩手」で行われました。こちらのホテルは以前に参加した記憶があ

ります。バスで山の上に登り、岩手山や姫神山がはっきりと見え、のどかで空気が澄んでいて素敵な所でした。ホテルに着くと直ぐに昼食。大きなお弁当でお腹いっぱいになりました。

１３時から大会式典が始まり、開会式挨拶、歓迎の言葉、次に主催者の挨拶と来賓紹介、全肢連事務局長の上野さんの挨拶があり、大会式典は終わりました。

１４時１５分から１６時３０分まで、グループワークが行われ、１班から１０班に分かれてテーマを決めて始まりました。私の班は、宮城県から黒川さんが入り、１１名で行いました。その中から色々な意見が出て、ある方からは、子供さんに対して「いつもバスの運転手の態度が悪い」と言っておりました。その他「年金の生活費が足りない」「すぐにグループホームに入りたい」「交通機関は予め予約が必要」「市の対応がとても悪い」「親亡き後がとても心配です」などと様々な意見が出ました。こういったグループワーク方式のやり方はたくさんの意見が出て、とても良かったと思いました。

その後、１８時３０分から情報交換会が始まり、岩手東和町立石百姓踊りの披露、田んぼを耕す所から肥料、代かき、苗運び、田植え、稲刈、脱穀、収穫まで、昔からの作業を面白く踊りとして見せて頂きました。何か昔のことが思い出されるようでした。

２日目の朝、皆と一緒に朝食を取り、岩手県の会長さん始め皆さんに見送られ、一路「えさし藤原の里」へ向かい見学しました。中に入ったら広くて又、建物の色が鮮やかな真っ赤でとても素晴らしかったです。この広い所を廻って少し疲れましたが、東北大会に参加出来、大変勉強になり良かったです。

平成２７年度各種会合予定

第４８回全肢連全国大会香川大会
　日時　平成２７年９月１２日～１３日、場所　高松市　サンポート高松

第３５回東北地区大会青森大会
　日時　平成２７年９月５日～６日、場所　青森市　青森県観光物産館アスパム

平成２７年度東北地区指導者育成セミナー
　日時　平成２７年８月１日～２日、場所　仙台市　茂庭荘

第３９回宮城県肢連通常総会
　日時　平成２７年６月２０日、場所　宮城県障害者福祉センター

単位会総会
　仙台：日時　平成２７年５月３０日、場所　仙台自立の家
　東部、仙南、仙北、石巻：日時・場所　未定

さわやかレクリェーション
　《防災訓練》日時　平成２７年１１月２７日、場所　仙台自立の家
　《震災復興ツアー》日時・場所　未定

みやぎアピール大行動２０１５
　日時　平成２７年１１月１日、場所　仙台メディアテーク

大崎公民館まつり
　日時・場所　未定

仙台自立の家感謝祭
　平成２７年１０月１０日

平成２６年度東北ブロック地域指導者育成セミナー

日時：平成２６年８月２日～３日
場所：福島県　岳温泉
成年後見制度・相談支援をテーマに

障害者福祉を推進するため、中心的役割を担うリーダーは不可欠です。しかし、世代交代が進まず、リーダーの高齢化や会員ニーズの多様化もあり、活動の停滞が顕著となっています。

このような現状を受け、各地域の中で活躍できるリーダーを育成することを目的として、今年も八月二日、三日の両日、福島県二本松市岳温泉「光雲閣」を会場に「東北ブロック地域指導者育成セミナー」が開催されました。

テーマに、障害者の地域移行を積極的に推進するため「肢体不自由児者と家族のための成年後見制度」と、日常生活の身近な課題である「相談支援の課題」を掲げ、講演とグループ討議を行いました。

本会からは、川名敏也さん、入間川喜代さん、入間川節子さんと、永井一男の四人が参加しました。　（永井一男記）

難しいテーマに挑戦

「地域指導者育成セミナー」に参加して
永井　一男

全国肢体不自由児者父母の会連合会（全肢連）の平成２６年度東北ブロック地域指導者育成セミナーが８月２日、３日の両日、福島県二本松市岳温泉で開催されました。

宮城県肢連からは、幹事の川名敏也さん、同入間川喜代さん、仙台肢会幹事の入間川節子さんと私永井一男が参加しました。セミナーには、山形県を除く東北５県と全肢連事務局から２６人の参加でした。

セミナーは、全肢連事務局の宮沢英子さんの挨拶・司会で始まり、地元、福島県手をつなぐ親の会連合会会長の照山成信さんの歓迎の挨拶に続いて、社会福祉士・相談支援専門員の渡邊中氏による「肢体不自由児者と家族のための成年後見制度」と題しての講演がありました。

渡邊氏は、「専門用語が多く理解しずらいと思う」と前置きし、成年後見制度の前身である禁治産・準禁治産は、本人の保護や財産の保護は強調されたが、基本的人権は重視されなかった。

本人の自己決定権の尊重や身上配慮が必要との観点から民法改正が行われ、旧民法の保護に加え、自己決定の尊重、本人の現有能力の活用、ノーマライゼーションを基本理念に加え、成年後見制度が施行されたと発足の経過に触れられた。後見人には、家族後見人と第三者後見人（専門職後見人・市民後見人）があり、いずれの成年後見人も成年被後見人の生活、療養看護および財産管理の事務を行うに当たっては、成年被後見人の意思を尊重し、かつ、その心身の状態および生活の状況に配慮しなければならない。成年後見人、成年被後見人双方にとって現実的問題が多く、制度を活用している人は極少数だと結びました。

この後、４グループに分かれ、１日目は「成年後見制度について」、２日目は「相談支援いついて」グループごとに討議・発表しました。いずれのテーマも言葉は分かっていても、掘り下げた内容となると理解不十分な面もあり、「行政は、障害者等に分かり易くＰＲすべきだ」などの声が聞かれました。

２日間とも休憩なしのきついセミナーでした。また、難しいテーマでもありましたが、大変勉強になりました。このような機会を与えてくださいました岩崎県肢連会長はじめ関係者の皆さんに心から感謝申し上げ、ご報告といたします。

みやぎアピール大行動２０１４

日時：２０１４年9月１５日
場所：せんだいメディアテークオープンスクエア

第８回みやぎアピール大行動が、みやぎアピール大行動実行委員会（参加団体＝３７団体）主催で仙台メデイアテークオープンスクエアにおいて開催された。大行進には約２００人の障害者･支援者が参加した。

第１部では伊藤周平氏（鹿児島大学院教授）による講演
「社会保障改革の現状と障害者福祉のゆくえ」
－今こそ生かそう「障害者権利条約！
　進めよう私たちの望む制度改革を！
と題する講演が行われた。

第２部では次のような障害当事者によるアピールが行われた。
・入間川　節子氏（ＣＩＬたすけっと）
　「電動車椅子と出会って」
・山本　潔氏（宮城精神しょうがい者団体連絡会議）
　「権利条約無視の「病棟転換型居住系施設建設に反対す声を！！」
・小関　理氏（ＮＰＯ法人宮城県患者･家族団体連絡協議会）
　「治療と同時に社会参加を」
・黒川こころの応援団のみなさん

当事者アピールの後、○障害者総合支援法を撤回すること、○基本法にのっとり、骨格提言を尊重した新法を制定すること、○「病棟転換型居住施設を撤回すること、○介護保険の優先適用を見直し、障害者の必要なサービスを保証し負担を増やさないこと、○福祉予算を先進国並にすること等を国に要請する「みやぎアピール大行動２０１４アピール」を採択して閉会した後、市内を大行進した。

（金子武次郎記）

電動車椅子と出会って

「みやぎアピール大行動」
トークリレーより
入間川　節子

私は「第１回みやぎアピール大行動」で、身体障害者代表としてスピーチをしました。その頃は電動４輪車を地下鉄の駐輪場に置き、その後は杖を頼りにどこまでも歩き通しました。

しかし年を重ね、長い距離を歩けば足が痛くなり、施設を休むこともありました。結局電動４輪車のまま外出する手段しか考えられませんでした。ところが車体が大きいので、地下鉄に乗せるのもエレベーターを利用するのも、誰かの手を借りなければできない状態だったのです。

電動４輪車に限界を感じた時、「電動車椅子を使いたい」と思うようになり、とりあえず、福祉課で電動車椅子の必要なことを話し、それを聞いてくれた係の人が「そんなに大変な状況でしたら、障害者総合支援センターに書類を出してみます」と言われました。そして数日後、支援センターから電動車椅子がもらえるようになると言う電話が来ました。きっと施設に通う移動手段として、すぐ配慮をしてくださったみたいです。この電動車椅子は切り返しレバーで手動になるタイプで、折りたためば車

のトランクにも入れられます。さらにライトやブザーも付けてもらいました。さっそく電動車椅子を動かしてみました。私は右手が不自由なので左側に操作レバーを付けてもらい１ヵ月間は練習をして、ようやく真っ直ぐ走れるようになりました。

今回もらうことができたのも私が仙台市に住んでいたし、施設に通う移動手段と言う条件が揃ったからだと思います。しかし、仙台市外に住んでいる人は、歩くことが困難でも電動車椅子をもらうことができないと聞きました。地域によってこんなに差があるなんて矛盾を感じます。

また子どもの時から「歩ける人は、車椅子に頼らないように」と言われ続けてきたせいか、「一度車椅子に乗れば、歩けなくなる」と私も思っていました。しかし、電動４輪車や車椅子を実際使って、「歩けなくなる」ではなく、「一度楽を覚えれば、頼ってしまう」と意思の弱さが出てきます。

たとえ、不安定な歩き方でも歩けるのは良いことだと思います。しかし、無理して歩いているから、二次障害などで体が悲鳴を上げていることも事実です。健常者が自転車や車を利用しているように、歩行可能な障害者でも、車椅子が必要ではないかと思うようになりました。ただ「足の筋力が衰えても、歩けなくなっても構わない」では、せっかく購入した車椅子が悪い道具になってしまいます。自分の体は自分がいちばん判っている筈です。その日の体調と相談して「ここまでは車椅子を利用して、その先は歩こう」と心に決めることもできるのではないでしょうか。

私の場合は、地下鉄のホームまで車椅子。電車に乗る時は歩いて車椅子を中に入れていますし、施設内では歩いています。そんな形の車椅子生活があっても良いと思っています。電動車椅子を使い始めて半年近くなります。最近では街を歩けるようになりました。その反面エレベーターに乗るため、遠回りをしなくてはならない大変さも判ってきました。

車椅子が通れる場所はベビーカーやご老人など、誰でも安心して通ることができます。まして仙台市は「誰もが住みやすい街づくり」を掲げていますし、今年度には地下鉄東西線も開業されます。

地上でも地下通路でも「ここは車椅子が通ることはできません」と言う所が、一つでも減らせるようになれば、文字通り「誰もが住みやすい街」になることでしょう。私の電動車椅子生活は始まったばかりです。

みやぎアピール大行動から半年が経ちます。足が痛い時は車椅子に頼っています。これでは文章どおり「車椅子が悪い道具」になることを痛感しているこの頃です。

歩行可能な障害者が車椅子を利用する時、「車椅子があるから歩けなくなった」のではなく、「歩けなくなったことを車椅子のせいにしている」ことに気がつきました。「車椅子を利用しても、歩けるうちは歩こう」と言う意志や判断を間違わなければ、車椅子は移動手段の頼もしい相棒になってくれる筈です。

トークリレーに臨む入間川さん

単位会だより

仙台地区

会長　佐藤　征機

平成２６年５月３１日（土）通常総会を仙台自立の家で開催しました。肢体不自由児者のグループホーム建設が大きくなりましたことは、仙台肢会会報３４号でお知らせしたところです。その後２回勉強会をもちました。

１回目の講演は、平成２６年３月２２日仙台自立の家において、一般社団法人日本福祉支援協会すまいるハウス西中田の大江正義様に講演していただきました。

２回目の講演は、平成２７年１月１７日仙台自立の家において、宮城県東部地区肢体不自由児者父母の会赤間会長様に講演していただきました。グループホームのメンバーと仙肢会三役が参加して、グループホームの運営、建設、施設の種類について様々な問題点を伺いました。

平成２６年９月１３日～１４日の２日間に行われた第３４回全肢連東北地区岩手大会は、いこいの村岩手で開催され、仙台肢会から７人の会員が参加しました。
さわやかレクリエーション・キャンプには、２３人の会員が参加しました。恒例の仙台自立の家祭りは、晴天に恵まれ３０度を超す暑さでしたが何事もなく無事に終わりました。大崎中央公民館まつりには、県肢連の呼びかけにより仙台と仙北の単位会が７年継続して一緒に参加し、会の活動になっています。

金子会長から引き継ぎ、早いもので１年が経ちいろいろとご迷惑をお掛けしますが、これからもよろしくお願いいたします。

東部地区

会長　赤間　邦夫

平成２６年度総会を平成２６年８月２日（土）多賀城市レインボー多賀城で開催し、岩崎志郎会長を講師に「父母の会の現状と問題（悩み）」等々の勉強会と震災後の会員の現状等について情報交換会を行いました。

会員の皆さんの声は、震災後の仮設住宅生活の問題や家族での支えや親の高齢化での悩みなど多くのお話を頂きました。

第３４回東北地区大会父母の会連合会岩手大会に参加して多くの皆さんと交流する事が出来て良かったとお話していました。

会員の皆様は、まだ被災地での生活が大変です。支え合いながら活動を継続していきます。

今後とも会員皆様のご支援をよろしく願いいたします。

仙北地区

会長　川名　敏也

地区だよりを書くのが今回初めてです。

平成２６年度は、前会長岩崎さんから会長の職務を引き継ぎました。

全肢連、東北肢体不自由児者父母連、県肢連の主催事業に参加いたしました。大崎公民館まつりに仙台肢体父母の会の方々と共に商品を大崎市民の方々に販売・広報活動を行いました。私の想像以上の売上額と広報活動ができた事はうれしいことでした。

会員のお子さん（障害者本人）に県肢連会報を送付いたしました。読売新聞東北総局並びに全肢連のご支援ご協力をいただ

き、読売新聞の新印刷工場にコカ・コーラの自動販売機を設置する事が出来、この誌上を借りましてお礼申し上げます。

３年ぶりに宮肢協の街頭募金活動に参加して私自身障害児者の福祉活動の原点を思い出す事が出来ました。平成２７年度の仙北地区の活動の基本は、①、会員の方々が会に入会して良かった、ためになったと思っていただけるような事業を知恵を絞り考えていきたい。②、会をこれからも存続する為組織形態を考える。③、将来の障害者の高齢化の問題への対応を考えていきたいと思う。

上記に記載した３つの活動の基本は大きいテーマですが、会が避けて通れない課題だと思いますので他地域会員の方々のご支援とご協力をお願い申し上げます。

平成２７年度も障害児・者にとっては厳しい状況が続きます。障害者年金は実質減額、物価高、入所施設や特養も定員が一杯の状況との話を聞きます。障害児・者や家族には暗いニュースが続きますが、会員の皆様に置かれましては体の健康に留意され日々をお過ごしいただければ幸です。

最後になりましたが前会長の岩崎さんは仙北地区の会長を１３年間務められました。長きに渡り大変ご苦労さまでした。今後も大所高所からご支援いただければと思っています。今後も会員の方々のご理解ご協力をいただきながら活動を行っていきますのでよろしく願いします。

会 員 便 り

我がふる里福島

瀬尾　彰宏

３．１１　東日本大震災から４年が経過しましたが、私のふる里郡山市は、除染が遅れております。市内の中心部はようやく完了したというものの、私の実家のある大槻町は未だであります。

３月３０日（月）の新聞に　福島第一原発事故市町村が実施の除染費用として、国が２月までに東京電力に請求した７６１億円のうち東電側が２％の１５億円しか応じず、残る７４６億円の支払いを拒否しているということでした。結局は国民負担の増加につながるということです。但し国の直轄部分については、９２５億円のうち約８６％の７９９億円を支払っているそうです。全く理解できません。放射性物質による汚染が深刻な第一原発周辺の１１市町村は、国が直轄で除染しこれまで４つの市町村で終了。それ以外の９９の市町村は各自治体が実施することになっています。完了したのは未だ１８市町村のみであるとのことです。時間が経過するにしたがって、子供たちの健康への影響について等に関して、マスコミに出ることが極めて少なくなってきています。どうしても理解できないことは、東電は経営危機を脱して、１４年３月期は３年ぶりの経営黒字を確保していること、１５年３月期連結決算も経常利益が２２７０億円の大幅増益の見込みということです。

今もって決定されていない最終中間貯蔵施設の問題、そしてまた、廃炉と汚染水に対する間違った「うそ」の情報は、経済のみを考えている方々の意見であると思

料します。

一日も早く昔なつかしい自然豊かな郡山に戻ることを心から祈るものです。

バス・地下鉄のバリアフリーに関する意見交換会に参加して

入間川　節子

平成２６年１２月１１日、仙台市福祉プラザで、仙台市交通局と５０人近くの福祉関係者による、バス・地下鉄のバリアフリーに関する意見交換会が開かれ、出席しました。

地下鉄東西線を１年後に控えて、交通局がこれまで行った、バリアフリーの取り組みなど説明して下さいました。その後出席者から、さまざまな意見が出されました。

私は毎日電動車椅子で地下鉄を利用していますが、気がついた所を発言しました。例えば車椅子のままで通れる改札機は南北線全駅にあるのですが、ただその改札機も長町南駅には１箇所しかなく、不便を感じていること。仙台駅バスプールから、エレベーターで直接地下鉄まで行くことが出来ないか。などを聞きました。すると交通局からは、管轄が違うので難しいとのことでした。障害者や弱者にとって管轄は別問題だと思いました。

また、視覚障害の人からは、エレベーターの表示を見やすくして欲しいという要望があり、さらに地下鉄サポーターの研修は、障害者を交えてもらいたいなどとさまざまな意見がありました。

一言の重み

金子　武次郎

４０年ほど前、私はありのまま舎の故・山田富也さん、キリスト教育児院の故・大阪誠さん、ひまわりの会の伊藤敏之さんらと種々の障害の違いを超えて障害者の願いをかなえる運動をと「障害者の声」宮城県集会という組織を立ち上げた。その準備過程で仙台市育成会の故・安孫子会長に協力をお願いしに行った。当時、安孫子さんは、毎日のように市役所に詰めていたので、私も週に３度くらいは市役所に顔を出したりしていた。私の協力要請を聞き終わった安孫子さんの口から出たのは、「そんなことといっても貴方たちは、いつでも私たちを違った目で見ているでしょう」という言葉だった。

私は一瞬言葉を失った。安孫子さんが言われたことの意味が直ぐ分かったからである。分かったと言うことは、とりもなおさず、私自身の障害者理解の最大の弱点を指摘されたからだと思う。この弱点は肢体不自由者自身を含め、かなりの親たちも持っていた偏見だった。口では全ての障害者を分け隔てなくと言っても、偏見の呪縛から解放されていなかった自分自身を思い知らされたのである。現在はこのような障害の違いを基にした差別感などを持つ人は殆どなくなったと思っている。

船岡養護学校の高校卒業生が初めて出る時期が迫ってきて卒業生の一人でも路頭に迷わせる事があってはならないと先生・ＰＴＡが、協力して子供たちを受け入れる「友の家」を作ろうと熱心に活動した時があった。全員学校に泊りがけで話し合ったことも今は懐かしい。寄宿舎の先生達と話し合う機会も多かった。その中で、自分自身、両上下肢が不自由であるが、努力して福島大学を出、船養の寄宿舎の寮母となられた平間先生がいた。ある時、先生が「結局、障害者のことは障害を持たない人には分からないのよね」と話された。当時若かった私は障害者を守る運動に携わる人達は真剣に取り組んでいること、障害を持つ持たないの壁を越えて一緒に進まな

くてはならないと力説した。然し、これは一般論であり、先生の言葉にまともに応える話ではなく、所謂健常者の「善意」の押し付けに過ぎないものかもしれない。それから４０年、８０近くなり私の体力が急激に落ちてきた。先ず車から降りて、舗装道に顔面からまともに転んだのを初めとし、足の衰えが急速に進んだ。何かしようと立ち上がればよろけ、転ぶのが怖く、よちよちとしか歩けない。室内で座ってしまったら、掴む所がなければ立てない。敏捷な動作など勿論出来ない。持ったものは直ぐ落とす。数年前までは思いもよらなかったことである。「年取ってみなければ分からないよ」と口から出かかった時、先の平間先生の言葉が甦り、素直に心に沁みた。思えば子供達は生まれた時から、このような生活上の困難を背負って生きてきたのだと改めて思った。こうやれば動きが早く出来るよなどといっぱし分かった積もりで言ってきた自分が恥ずかしく悔やまれる。子供たちはみんな一生懸命にやっていたのである。出来ないものは出来ないのだ。８０を過ぎ、身体が思うようにならなくなって、やっと障害者の心が幾らかでも分かるようになったのかなと思う。

安孫子さん、平間先生の一言、自戒の言葉として事ある毎に心に蘇える。私にとって大切な一言である。

長い間のご協力に感謝

金子　武次郎

平成２６年総会で任期半ばにもかかわらず私の健康上の理由で会長を辞めさせて頂きました。長い間会長を勤めることが出来ましたのも、会員皆様のご協力のお蔭と感謝致しております。

仙台自立の家の建設を初め、会の発展に大きな貢献を尽くされた前会長の後なので、果たして会長を務めることが出来るかなと心配しましたが、目黒・入間川・今野・瀧澤副会長さんの強力なサポートのお蔭で何とか会長を務めることが出来ました。特に目黒さん、入間川さんには会の事務的な仕事の一切を丸投げして助けて頂きました。副会長の皆様には長い間ご苦労ご迷惑をお掛けしましたことを謝すると共に心から御礼申し上げます。

非力ながら会員の願いを仙台市に要請、実現することを第一とし努めてきましたが、会員皆様の期待に充分応えることが出来ませんでしたことを申し訳なく思っています。今後とも会のために出来るだけのお手伝いはしたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

仙台肢会、県肢連の副会長になって

永井　一男

昨年５月の仙台肢会総会で仙台肢会副会長に、同６月の宮城県肢連総会で県肢連副会長にそれぞれ就任しました。

息子が昨年９月末まで、仙台自立の家でお世話になっておりました。これまでは、すべて家内任せで、障害に関すること、福祉に関することは、まったくの門外漢です。耳にする言葉さえも初めてで、副会長などという大役は、とても無理とお断りしたのですが、金子前会長の強い勧めで引き受けてしまいました。

あれから１年、あっという間ではありましたが、これまでにない多くの経験をさせていただきました。数回にわたる仙台肢会役員会、県肢連役員会、８月の東北地区指導者育成セミナーなど、一つひとつが勉強でした。

まだまだ勉強不足で、皆さんのお役に立

てるまでには至っておりません。これからも皆さんのご指導を仰ぎながら、副会長の責務を果たして行きたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

障害児の親として肩の荷が降りた？

松田　廣勝

私の娘は、１９８７年に一家でカナディアンロッキーをドライブ中に、センターラインを越えて来た対向車に正面衝突されるという交通事故で脊髄を損傷しました。５歳でした。

この事故で妻が死亡しました。

当時私は米国ワシントンＤＣで勤務しており、すぐに帰国してもいいよとも言われたのですが、日本より米国の方が障害児への対応が進んでいるだろうと判断し、娘が小学校に入学する直前の１９８９年春まで米国に留まりました。

脊椎で切れた神経が再びつながることを期待したのですが、それはかなわず、今も車いすで生活しています。

娘が下半身麻痺になってしまい、「可哀想なことをしてしまったな。結婚はできないだろうな」と思っていましたが、幸いにも良縁に恵まれ、結婚することができました。

また昨年１０月には子供にも恵まれました。

５月末からは、生後７ヶ月の赤ん坊を保育所に預け、新聞記者生活を再開したとのことです。

娘がずっと暮らせるようにと建てたバリアフリーの家は、これまで本人はあまり住んでいないという、嬉しい誤算となっています。

娘は、結婚、そして出産と、女性として人並みの幸せを手に入れることができたのかなと思い、障害児の親として肩の荷が降りた？感じがしています。

大人になった「児」から父母の会への手紙

車いす生活

青砥　信吾

私は、４年前の夏、第二啓生園の帰り道に青葉病院からバスに乗りました。腰掛ける前にバスが発車してしまい、私は前の方によろけておシリの方から転んでしまいました。私は大きな声で『助けて下さい』と叫び、乗っていたお客さんに助けてもらいました。私はその時は何でも無かったのですが、後からになって歩けなくなってしまい、『僕の人生はこれで終わった、これからどうしたら良いのか？治るのか？』と心配になりました。家の近くにある〔星内科医院〕に入院して治療してもらいました。入院患者さんとも仲良くなり、お話をしたり面倒をみてもらったり楽しく過ごすことが出来ました。先生から、夜遅くまでテレビを見ても良いよと言われ１１時頃まで見ていたり、朝にはコーヒーを作って下さいとお願いすると作ってくれました。２ヶ月間お世話になり、毎日がとても楽しかったです。今でも先生に診てもらっていま

す。

９月の末に退院しましたが、すぐに家には帰らずにそのまま車で〔仙台西多賀病院〕に行きました。先生には、泣きながら『僕の足を元通り歩けるようにして下さい』とお願いすると、『歩けるようにしてやるから、しばらくの間入院して首の手術をしましょう』と言われました。そのまま２階の病棟に移動して入院になりました。看護師さん達や、病棟の患者さん達ともしだいに仲良くなっていき友達になりました。一緒の病棟でお茶を飲んだり、話をしたりして毎日楽しく過ごすことが出来て思い出をいっぱい作りました。

約２ヶ月間をそこで過ごして、首の手術のために２階から５階に移りましたが、一人部屋になったので毎日テレビを見たり、ラジオを聞きながら過ごしました。その時は一生懸命に体を治すことを考えて、歩行器を使って歩く訓練を月曜日から金曜日まで毎日４ヶ月頑張りました。今となってはあの頃頑張ったことが懐かしい思い出です。

年が明けても入院中の私は、退院後にどうしたら良いのか、どこに行った良いのか考えていると啓生園園長の油井さんが病院にお見舞いに来てくれました。いろいろ相談に乗ってもらい、啓生園に入所が決まり、安心して平成２５年２月５日に無事退院することが出来ました。その後すぐに啓生園に入所して仕事をしながら生活しています。手のリハビリにもなる仕事の内容で、毎日雑巾でブンチン磨きをしています。毎週火曜日には近くの中島病院でマッサージや、歩行器を使って歩く訓練をしています。

今は車イスでの生活ですが、毎週土曜日に〔すぎなの会〕のボランティアの人と出かけるのが楽しみです。中でも買い物に出かけ、手にとって品選びをしている時が一番楽しいです。また、となりの体育センターで月に１回第１月曜日の午後から、風船バレーボールをしていますが皆んなイキイキとしています。あとは、ハンドベルの仲間である〔クアイアチャイア音楽広場〕もたのしく演奏しています。囲碁も指しますが初段になるのも夢の１つです。いっぱい夢がありすぎです。

私はまだ１人で歩くことの夢を捨てていません。１人で歩く夢をみながら生きていきます。皆さまも私のようにならないようにして下さい。病気や思いがけない事故や災害に出会うキケンはみんな同じです。からだが１番、健康１番です。気をつけながらお互いに仲良く暮らしていきましょう。

（平成２６年度　宮城県障害者福祉センター　自主事業　ライブメッセージ２０１５　発表作品）

啓生園に入所して

岩崎　環

今年で、啓生園に入所して２年目です。第２啓生園とは違い啓生園は、生活介護事業をやっています。１日の生活の中で、仕事も重度障害者でもできる文鎮磨き作業や、幅広い年齢層で大人の知恵も幅広く人間関係も充実しています。

幸町は、近くにショッピングセンターがあり、身障者にとってはとても行きやすく、町の人も温かい人が多くて暮らしやすい街です。仙台市街にも出やすく映画も見に行きました。「ゴジラ」と「バンクーバー朝日」を見ましたが、カナダで実在した人物の話で連敗続きを乗り越え勝利に導いた野球の物語で勇気がでました。

年に１回、秋の日帰りレクリェーションがあり、岩手県の「東北ニュージーランド村」に行きました。手作り体験をしたり、みんなで昼食を食べながら飲んだビールでとてもいい気分になり、岩手の秋を見つけて満喫してきました。

趣味、スポーツを通し障害を乗り越えて活躍し入賞している人もいます。私の趣味は写真で入賞したこともあります。これからも趣味の写真を続けていきたいと思います。

被災地障がい者支援活動について

ＣＩＬたすけっと代表　杉山　裕信

ＣＩＬたすけっとはもともと、自立生活センターを作ろうということで集まった団体が始まりだ。１９９５年1月９日（月）に発足して活動を始めた途端、１月１７日（火）に阪神・淡路大震災が起きて、その年の６月には仙台で第４回自立生活センター協議員総会を行い、一つの分科会にテーマとして「震災と障がい者」ということで仙台から当時、車イス利用者が神戸へ地元で車イスを集めて届けに行った方がいて、その方をお呼びして報告して頂き、これからどうして支援をしようか話し合ったことを覚えている。

私がＣＩＬたすけっとで被災障がい者支援活動をする理由は色々あるが、この総会のこともこの年の１２月に神戸に行った時に見たブルーシートのかかった家の多い光景を見たこともある。

２０１１年3月１１日（金）に東日本大震災が起きた。そして間を置かず福島では原発事故が起きた。当時は自分達の所がいったいどうなるのか、自分達の所は何をすれば良いか考えることで精一杯で、正直他の所がどうなっているのか考える余裕はなかった。震災から１年経って、「逃げ遅れる人々」を観た。分かっているつもりだったが、改めて今回の震災の大変さ、特に福島の障がい者の大変さが胸に迫ってきた。あの映画に出演している人の多くの人は知り合いで、日頃から連絡をとっていた人たちだから、何とも言えない気持ちになった。被災地障がい者センターみやぎの活動の最終年になる２０１３年には、県内いろんな所で上映会をして様々な感想をもらった。感想の中で私が印象に残っているのは、「震災当時、こんなにも全国で被災した私たちの為に障がい者が街頭募金をしてくれていたんだということを初めて知った。」ということと、「この映画に出演されている方が、今どうしているのかを知りたい。」ということだった。

私は機会を見ていつかは、映画に出演していた人たちを招いて、その後その人たちはどうしているのか、そして今後どうしていきたいのかを聞くシンポジュウムを企画したいと思っていた。今回ＣＩＬたすけっととゆめ風基金が共に２０年ということで、昨年の３月私が大阪に行った時に「是非、来年は仙台でゆめ風さんの総会を開きたい。」と言って開催が決まった時から、全員に快く引き受けてもらえた。会場に来ていた参加者は大まかに言って、ＣＩＬたすけっとの関係者とゆめ風基金の関係者とチラシを見て来た新顔の人たちだが、たすけっと関係と言っても東日本大震災の後に入会した人が多く、当時どういう被災障がい者支援活動をしていたかも知らないので、３月１４日の映画上映会も含めて良い勉強会になったと思う。

絹江さんは、「原発に関心を持ってこなかったことから今後は関心を持ち発信していく」ということ、長谷川さんからは「いわきで復興するまでに何年かかるかわからないが、色んな体験をした私たちが被災した人たちをしっかり支えていく」ということと、小野さんからは、「福島から県外に出て暮らしている障がい者として何ができるか、考えていきたい」ということと、青田さんからは「次の震災は必ずやってくるので、それにむけた対策を考え準備しよう。まず足元から始めるしかないが、行政にも提言していこう」ということ、飯田さんからは「あれから４年経って何も変わっていないことに驚いた。もう一度検証する

ことも必要ではないか」と言っていた。コーディネーターの八幡さんからは今回の震災でゆめ風基金がどういうことをやってきたかということと、「是非『逃げ遅れる人々２』をつくって欲しい」と飯田さんに言っていた。

牧口さんのあいさつから始まった第２部も予定時間の１６時を過ぎても会場からの発言があり、盛り上がったものになった。会場で私も発言したが、被災地以外の所では東日本大震災は過去のものとなり報道もめっきり減り、人々から忘れ去られているときく。こういう時だからこそ私たちは「人々から忘れさせない活動」が絶対必要だと思う。たすけっとの震災を知らない人たちに震災体験を受け渡した意味でも。今回の企画は開催して良かったと思う

最後にこの企画の準備に携わった皆さん、奔走してくれた皆さんに感謝する。

特 別 寄 稿

思うこと

一般財団法人宮城県肢体不自由児協会
会　長　小川　泰治

みちのくの四季、折ふしに移り変わる風景はどの季節もそれなりに素晴らしい。春から秋まで、それぞれの季節に咲く花は、慌ただしい現代の生活に心を和ませてくれる。”と地理学者の池田雅美先生は言っておられる。

今年も桜の季節が終わり青葉若葉の新緑の季節になろうとしているが、日々の生活の中で四季折々に移り変わる風景と季節に咲く花をどれだけ目にし、心にとどめ、花の美しさ、香りそして儚さをどれだけ覚えているだろうか。

２０～３０代の若い時ならまだしも古希を過ぎて２年の今、歳のせいでしょうか、体調だけに気を取られ、季節感もあまり覚えず、カレンダーがめくられていくことだけに不安を感じ、心のゆとりもなく、時には惰性の中で日々を過ごしている自分にふと気が付くと虚しさと焦りを覚えてしまい自分を見失うときさえある。

３０～４０代の頃は福祉に飛び込んだ時の原点を思い出し乗り越えたが、最近ではこれまでの仕事や生活に対しての悔恨と反省が浮かんでは消え、浮かんでは消えの繰り返しである。

５０代の頃に読んだ本に、ある小学校の先生が生徒に“雪が溶けたらなんになる？”という問題を出したら殆どの子供が“水になる”と答えたが、一人の生徒が“春になる”と答えた。すると、先生は“春になる”と答えに×を付けたという。先生は、“春になる”と答えた生徒の感性を受け止め、それをテーマにして話し合いを持てば生徒たちの感性は豊かに育っていったと思う。

７０代になると学ぶことから遠ざかり、つい経験、体験の中で日々の生活をこなし、新しい感覚や発想の中での展開が薄れてしまい、感性が鈍くなってきている。ふと、そんな自分に気付いたとき、私は、ものすごく人が恋しくなる。人と人との出会いを大切にし、その出会いの中にふれあいを持ち、そしてそのふれあいから感動を得た時は、心身共に最高のリフレッシュであり、明日への活力となり、新しい自分を発見した感にもなる。

幾つになっても、季節に咲く花を愛でる心のゆとりと感性を持ち、初心に帰り、人から人への福祉の心を大切にしていきたいと、今、自分に言い聞かせている。

熱い情熱で困難克服

グループホーム建設委員会

仙台肢会の平成２６年度活動計画の重要課題の一つに掲げた「グループホーム建設」については、これまで勉強会を中心に７回にわたる委員会を開催しました。

グループホームとは？から始まって、関連法律、政令、省令など、硬くなった頭を何度もたたきながら勉強してきました。また、東部地区の赤間会長さんからは、自らグループホームの建設に携わった経験をお聞きしました。

また、４月１６日には、社会福祉法人・仙台市肢体不自由児者父母の会の松田理事長、渡部自立の家施設長と懇談し、これまでの経緯を説明し、理解と協力を訴えました。

これまでの議論をもとに、昨年９月、委員会としてのグループホーム設置への「想い」や基本的な「考え方」をまとめ、仙台肢会会報３４号号外で報告しました。

これからは、その「想い」や「考え方」に沿って、具体的な取り組みが求められま

す。

障害を持つ本人はもとより、その親として、「親亡き後」も安心して預けられる住まいの実現を望んでいると思います。その「想い」を、是非声に出していただきたいと思います。熱い情熱があれば、いかなる困難も克服できると確信しています。

（永井一男記）

四十年の歴史に幕
多賀城市「太陽の家」

河北新報の３月２２・２３日の朝刊に、多賀城市の障害児と健常児の統合保育を４０年にわたり実践してきた「太陽の家」が、今年４月から障害児らの療育や相談業務を担う児童発達支援センターに移行すると報じています。

記事によると、３歳児から就学前の児童の通園施設として、多賀城市が運営してきましたが、現在は、通園している２３人のうち健常児は１人だけとなったことが、統合保育を断念する理由の１つになったようです。

関係者は、当時を振り返り「話の出来なかった障害児が健常児から毎日のように話しかけられ、答えられるようになった」。また、以前、娘さんが通園したことのある県肢連会員の下山清子さん（東部地区）は「子どもの症状について情報の得にくい時代、職員や親同士で話せた、縦と横のつながりが、どんなに心強かったことか」と話しています。

４０年続いた「統合保育」が消えていくことは、淋しく、残念ですが「太陽の家」は、４月から「県手をつなぐ育成会」の運営で、新たなスタートを切るそうです。これまでの経験と教訓を基に「共生」への理念をしっかりと受け継いでほしいと思います。　（永井一男記）

「太陽の家」に通園して

下山　清子

多賀城市にある『太陽の家』は、健常児と障がい児の統合保育通園施設でした。本年４月より４０年の役割を終えて児童発達支援センターに移行になりました。０歳から高等部３年生まで利用出来ます。

江理子は、３年間通園しましたが、１年間は母子通園でした。この母子通園で親の私が学んだことは沢山ありました。私も子供達と一緒にあそぶことでとてもよい勉強になり、色々な障がいがある事を学びました。

江理子は、水あそび（どろんこあそび）、リズム運動、乳母車に乗っての散歩など、毎日がとても楽しく通園できたのは、保育士さんや友達に沢山遊んで頂いたからだと思います。

発達支援センターの名称は、『太陽の家』と残ったのがとても良かったと思います。これからも、障がい児家族に心を寄せた保育をして頂けることを願っています。

多賀城市　太陽の家

仙台自立の家感謝祭

ご支援・ご協力に感謝

瀧澤　琴子

「自立の家」の最大イベント感謝祭が１０月１１日、青空のもと開催されました。

本年度は、少し形を変え、利用者の屋台などは食堂で行い、施設製品、バザー用品の販売は、屋外で行いました。例年どおり、蔵王の我妻さんから里芋、山形の菅野さんからお米、もち米を仕入れて販売しました。又、志子田先生からじゃが芋を沢山寄付して頂きました。佐竹さんからも枝豆を寄付して頂きました。準備として値付けや野菜の袋詰めなどは、お母さんたちにお手伝いしていただきました。バザー用品は、衣類が多く格安の値段でしたので、まとめて買って行かれるお客様もいました。お客様も顔馴染みの方が多かった様です。

イベントとしては、聖和学園短大生によるハンドベル演奏が行われ、清らかに響き渡る音色に魅了されました。

仕入れたものは完売しましたが、バザー用品の残ったものは、大崎公民館まつりで販売しました。収益金は１３９，２４０円で、自立の家、後援会、父母の会に配分しました。皆様からの温かい沢山のご支援、ご協力を頂きまして心から感謝申し上げます。

「自立の家」感謝祭

菅原　加奈

今年の感謝祭は、天候にも恵まれて『自立の家』の通所者の、日頃の頑張りの成果を大いに発揮出来る一日となりました。
私は喫茶コーナーの担当で、今年はどんなお菓子かなぁと楽しみでした。とても評判が良くて、あっという間に売り切れでした。持ち帰り用（おみやげ）があったらいいと思いました。

バザー用品も沢山の方々の協力のもといっぱい集まり、お母さん方が値段を付けたり、並べ方を工夫して商品を見やすくして少しでも多く売れる様に頑張ってくれました。ありがとうございました。私も気に入った品物を３～４個購入させてもらいました。ささやかな願いとして昼食におにぎりと豚汁？などがあったら最高でした。

地域の行事と重なったのか？お客様をひきつける力が足りなかったのか？例年よりもお客様の数が少なかったのが残念でした。来年の感謝祭にはもっと多くの方々に来て欲しいです。

感謝祭バザーに参加して

今野　健

去年の１０月１１日土曜日に『仙台自立の家』の感謝祭バザーが行われました。

その日はとても天気が良かったです。それとバザーの品物もいっぱい集まりました。また、聖和学園短期大学生のハンドベルの演奏も行われました。とってもきれいな音色ですばらしかったです。また今年もいい天気にめぐまれて感謝祭バザーができたらいいと思います。

会長日誌

仙台肢会会長

佐藤　征機

平成２６年５月３１日に、前金子会長から会長を引き継ぎましたが、各副会長から会議や会の運営、バザーの準備、野菜の収穫、販売、祭りの準備、などいろいろとご協力をいただき、何とか一年が過ぎました。ありがとうございます。なんにもわからず、会長とグループホーム委員会の世話人にもなりました。

グループホーム委員会の会議は６回開きましたが、グループホーム建設については、資金の裏付けがない等の状況なので大変難しいものと思われます。別に『新井コレクティブハウス建設委員会』の方にも参加しており、情報を集めております。特に、金子さんと永井さんには大部分おんぶに抱っこで申し訳なく思っております。

これからも、いろいろとご迷惑をお掛けいたしますが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。会員の皆様にいろいろの情報をお伝えしたいと思っています。

県肢連会長

岩崎　志郎

昨年９月２７日涌谷天平ろまん館で開催したさわやかレクリェーションは、３４人の参加者のもとで『砂金採り』体験コースで実施された。近くの黄金山金山から採掘され運ばれた砂の中から、山奥の谷間を流れるせせらぎに見立てた木枠の中で皿一杯に盛った砂を何回も何回も洗い流す。砂の中に金色に輝く一粒の砂金・・・・あった・やった・・。
一粒の砂金を探り当てた親子の恵比須顔が・・・・。

宮城県肢体不自由児協会主催による『手足の不自由な子どもを育てる運動』の一環として、街頭募金活動が仙台駅通り東宝前で１１月１５日、１６日の２日間開催され参加した（写真）。会員をはじめ会員が呼びかけ参加していただいた知人の父母と子ども達・仙台自立の家職員と子ども達・肢体不自由児者車イスで参加した本人、合わせて３９人による例年にない多勢の参加協力を得た。募金箱を胸に下げ片手にパンフレットを持ち、通行人に大声で呼びかける子ども達の眼差しと姿に協力して下さる通行人にも答える顔の募金が感じられました。ありがとうございました。

過ぎ去る年月・迎える年月のスピードは一定なるも、過ぎ行く早さが一層早く感じるこの頃です。

平成２７年６月２０日開催されました第３９回通常総会を以って私事、宮城県肢体不自由児者父母の会連合会　会長を退任させていただく事となりました。

平成１８年度より９年間の長きにわたり会員皆々様と障害をもつ本人の皆々様、関係機関団体各位様には、多大なるご協力とご指導を賜りました事に厚く御礼申し上げます。新会長には、副会長であります仙台肢会　永井一男様が第３９回通常総会で選任されました。今後尚一層のご協力とご指導賜わります様よろしくお願い申し上げます。長い間本当に有難うございました。

古川公民館まつり

穏やかな天候と皆さんの協力で

入間川　喜代

今年の古川公民館まつりは、本当に穏やかな天候に恵まれ、何より良かった事のひとつです。それに永井副会長の協力を得た事。前々日には瀧澤さんと今野さんが、古川行きの準備をして下さった事も、体調の悪い私にとっては助けて頂いた有難い事のひとつです。

当日は、現地直行の川名君を入れて、県肢連から４人、仙肢会からも４人で満積の３台の車に分乗して、自立の家を十時に出発しました。途中早目の昼食を取り、それでも公民館到着は少し遅れました。川名君は１時間近く待ったと言っていました。公民館職員の方々も、長机や椅子などを用意しておいて下さったので、着いてすぐ開店準備にとりかかりました。

岩崎会長はパンフレットを片手に、永井さんには重い瀬戸物を出して頂き、川名君は手製の小さい品物を並べ、向かい側の自立の家製品も出揃って、まずまずの出足で開店しました。でも、欲を言えば昨年より人出が少ないように感じました。事務局の下山さん、仙北の山崎さん達も来て頂き有難うございました。

４時すぎて売り上げの計算をしましたが、人出が少ない分、昨年並みまでいかなかったのが残念でした。古川公民館まつりに参加出来、又無事に終わり、皆様のご協力に感謝いたします。

バザー用品の売り上げから、必要経費を引いて残額を本会計に入れました。

編集後記

金子前副会長から引きついで、初めての会報作りに挑戦しました。期日までに発行できるか不安でしたが、金子さんからの適切なアドバイスと、県肢連の下山事務局員の迅速な原稿手配などにより、何とか発行することができました。原稿をお寄せくださった皆さん、編集から印刷までご協力いただきました仙台自立の家の渡部施設長、情報処理班入間川節子さん、鈴木力さんには格別のお計らいを頂き心から御礼申し上げます。

（永井一男）